

アントン

命の重さ

ツェラー作 中村智子訳 主婦の友社

ナチス政権下のドイツでは、純血主義にあわない者は、だれもが邪魔な存在とされ、障害をもった者も迫害されていた。幼いころ事故にあったアントンは、計算や絵を描くことは得意だが、後遺症により言語障害と右腕の麻痺を負っている。戦争が激しくなるにつれ、通っていた学校では、教師や級友からの差別や虐待が行われるようになった。両親はアントンを守るために、ある決断をする。

困難な状況の中、懸命にアントンを救おうとする人々の姿を通して、命の重さを考えさせられる一冊。

